

タウンミーティング・アンケート回答

項目	質問	回答
学校づくり全体に関すること	新校舎の整備予定地をなぜ御所小学校・御所中学校の敷地としたのか。	新たな学校の整備候補地の選定にあたっては、安全性、事業の迅速性、事業コスト、利便性など、様々な角度から評価項目に基づき複数の候補地の比較検討を行った結果、総合評価として御所小学校及び御所中学校の敷地が最適であると判断しました。 主な理由として、①近隣に文化施設や公園があり、社会教育との連携が可能な立地であること、②整備に必要な敷地の確保や将来の児童生徒数にも対応できること、③両校が隣接しており、一体的な学校運営がしやすいこと、などが挙げられます。詳しくは、市のホームページに掲載している「御所市立小・中学校に係る新しい学校づくり基本方針」をご覧ください。
	これらの事業を決定される決定権はどなたにあるのか	学校再編や新しい学校づくりに関する最終的な意思決定は、市長にあります。ただし、その過程では、教職員やPTA、地域住民の代表、有識者などが参加する「御所市学校規模適正化推進会議」での検討を経て、市総合教育会議に提案され、さらに議会の同意を得ながら進めてまいります。また、市民アンケートやワークショップで寄せられた意見等も踏まえながら、具体化していきます。
	建設中の子どもたちの学びの場はどうなるのか（体育の授業、工事の音、運動会の縮小）	新校舎等の建設にあたっては、工事期間中も子どもたちの学びや生活に支障が出ないよう、最大限の配慮を行ってまいります。工事中は御所小学校側の運動場の一部が使用できなくなりますが、その点は体育館や近隣施設等を活用し、体育の授業がしっかり行えるようにします。また、プールの解体期間中は、近隣の小学校のプールを活用するなど、代替手段を講じます。騒音についても、防音対策を講じるほか、授業への影響が少ない時間帯に音の出る作業を行うなど、施工業者と連携しながら対応してまいります。 校内の活動スペースは一時的に制限されますが、子どもたちが安全かつ意欲的に学び続けられるよう、教育活動を工夫してまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いします。
子どもの生活・学びに関すること	制服・校歌・校章などについて	制服や校歌、校章などについては、他市でも児童生徒・保護者・地域住民の意見を取り入れて決定された事例が多くあります。御所市でも同様に、アンケートや意見交換、公募などを通じて、みんなで考えながら決めていく予定です。子どもたちが愛着をもてる、地域に根ざしたシンボルとなるよう、多くの方の声を反映してまいります。
	新しい学校の特色・強み	新しい学校では、これからの時代を生きる子どもたちに必要な力を育むため、特色や強みを地域とともに丁寧に築いていきます。その出発点として、変化の激しい社会の中で一人一人の可能性を最大限に引き出す教育をめざし、今後策定される新しい学習指導要領や市の教育大綱をふまえた、学校教育ビジョンの策定を予定しています。このビジョンは、本年度実施した教職員によるワークショップや市民・保護者の皆さまのアンケート結果などを反映し、パブリックコメントを通じて広くご意見を募り、共有された目標としてまとめてまいります。
	クラス分けをするとき、校区別の配慮があるのか	クラス分けにあたっては、子どもたちが安心して新しい環境に適應できるよう、旧校区の子ども同士が同じクラスになるよう一定の配慮を行います。ただし、学年全体の人数や男女比、学習・生活面での多様な要素を考慮し、総合的に判断して編成します。子どもたちが新たなつながりを築けるよう、学校全体で丁寧に支援してまいります。
	今後の部活動について	今後の部活動は、学校と地域が連携して支える「地域展開」が進められる予定です。子どもたちが多様な体験や交流の機会を得られるよう、地域の人材や施設を活用しながら、持続可能な活動体制を整備していきます。特に中学校の休日の部活動については、段階的に地域のクラブや団体などへ移行していくことが求められています。一方、平日はこれまで通り学校で教員が指導を行う予定であり、市としても関係機関と連携し、円滑な移行に向けた準備を進めてまいります。
	少人数から大人数になることに対しての子どもへのケア	小規模な環境から大人数のクラスに移ることに不安を感じる子どももいるため、段階的な交流の機会を計画的に設けています。開校までの間、市内の学校をオンラインでつなぎ、合同授業や交流活動を実施するほか、対面での合同行事も予定しています。これらを通して、他校の友達と関わる機会を重ね、自然な形で新しい人間関係を築けるよう支援します。子どもたちが安心して新しい環境に入れるよう、スクールカウンセラー等も配置し、サポートしてまいります。

タウンミーティング・アンケート回答

項目	質問	回答
	外国からくる子どもの増加に対する対応について	現在も外国から来た子どもたちが市内の学校に在籍しており、言葉や文化の違いに戸惑う場面もあります。そうした子どもたちを支えるために、翻訳機やICT機器を活用して日常会話や学習支援を行うほか、日本語指導員を配置し、一人一人の状況に応じた丁寧な支援を行います。今後も多文化を尊重し、安心して学べる環境づくりを進めていきます。
通学・安全・災害対応に関すること	新しい学校の駐車場について	令和13年の開校時には、校舎の使用は開始されますが、解体工事やグラウンド整備が継続しているため、すべての施設が完成するまでの間は一時的に駐車スペースが不足する見込みです。そのため、開校当初は敷地内外の活用や時間帯の調整、一時的な駐車場の確保など、混雑緩和に向けた対策を講じる予定です。
	通学バスについて	遠距離通学となる地域のバス停は、既存の小学校敷地を基本とし、徒歩距離や時間を総合的に考慮し停留所の位置を決定する予定です。児童生徒の通学状況や住所をもとに、安全かつ効率的なルートを検討した上で決定する予定です。
	御所小敷地から御所中敷地への移動の際の安全性について	小学校敷地と中学校敷地が分かれる中で、子どもたちの安全を最優先に考えた施設配置と運用を計画しています。授業や日常生活は校舎側で完結できるよう、校舎側にはグラウンドと大中小3つの体育館を整備する予定です。 また、現御所中学校の敷地に整備する予定の大きなグラウンドは、主に中学生の部活動で使用する想定としており、必要な移動が生じる場合でも、安全に配慮した動線や時間設定、引率体制の確保など具体的な対策を検討してまいります。
	災害時の下校方法について	災害発生時には、児童生徒の安全を最優先に、校内待機・集団下校・保護者引き渡し等の対応を状況に応じて行います。新校舎では防災設備の充実を図るとともに、地域と連携した避難訓練や防災教育を継続的にを行い、安全な避難体制を整えてまいります。
教育内容・カリキュラムに関すること	9年間のカリキュラムだと中学受験に不利にならないか	9年間の一貫カリキュラムは、小学校と中学校の学びを系統的につなげ、子どもの発達段階に応じて無理なく学びを深めていく仕組みです。よって、中学受験を妨げるものではなく、不利になることもありません。
関する学童に	学童保育はどうなるのか	現時点ではまだ決定事項ではありませんが、学校再編に併せて現在市内に7つある学童も1つに集約し、新しい学校の敷地内もしくは隣接地において整備する方向で検討を進めております。学校再編後も放課後児童が安全に過ごせ、また保護者が安心して子どもを預けられるよう、環境整備に努めてまいります。
地域・制度に関すること	隣接校選択制を導入してほしい	令和13年度に市内の学校を1小1中に再編するため、新設校選択制の導入は考えていません。
	他校区のタウンミーティングに出た質問を知りたい	全会場で出た質問については、HPに掲載しています。
	学校の跡地利用について	学校の跡地利用については、地域の実情やニーズに応じた有効活用が重要と考えています。今後、他市町村の先進事例も参考にして、福祉施設、防災拠点、地域活動の場など多角的な視点から地域の皆様と共に検討を進めてまいります。